瀬戸内タウンミーティング（本庄地区）

平成 23 年 11 月 11 日（金）19 時～21 時
本庄コミュニティセンター 大会議室

参加者：男性 12 人、女性 2 人、計 14 人

行政報告に対する意見と市長の回答

・市民病院の薬局が院外処方になったのには意味があるのか。市民病院は、院外処方だが、牛窓診療所は今でも院内処方である。また、市民病院は、診察の待ち時間が発生しており、さらに薬局でも待っているが、牛窓診療所は待ち時間がない。定期的に薬をもらうだけなので、いつも牛窓診療所に行っている。しばらくの間残すのであれば、もっと牛窓診療所を使うように PR をすべきではないか。

（市長）牛窓診療所をどうするのか、早急に見直す必要があると考えていたが、現在、本院の建て替えを平成 25 年度中に着工する必要があるため、そちらを先に進めなければならない。将来、牛窓診療所を残すのであれば、大きい建物をそのまま使うのではなく、もっと条件の良い場所に移し、薬局も院外処方にすることになると思う。

・美術館は、敷地内に入ってみないと開館・休館がわからない。車で前を通る際に開館していることがわかれば、立ち寄る人も増えるのではないかと。また、せっかく作っても来る人が少ないのでは意味がない。市民には無料開放した方がよい。

（市長）美術館は、維持経費が年間 2,000 万円程度必要である。これは、年間 2 万人来館したら、入場者 1 人あたり 1,000 円かかっている計算である。入場者からお金をもらわなければ、この 1,000 円がまるまる市の負担となる。そのため、来館者にも 400 円を負担していただいている。また、美術館は、来場者を増やすために特別展を次々に開催している。特別展の場合は、絵を他からお借りすることになるため、その費用もかかる。特別展をすることで赤字を増やすわけにはいかない。バランスをとりながらやりたい。

・行政委員をやっているため、防災無線の端末を家に設置している。しかし、避難勧告等が出ても、実際に自治会中をまわることは難しい。端末を各戸配布することはできないのか。

（市長）各戸配布するためには、機器購入にかかる費用のほか、今後端末の更

新のための費用も発生することになるため難しい。防災無線による放送以外の方法での周知を行っている。防災無線の内容が聞き取れなかった場合には、電話で確認できるサービス（0869-22-0699、0869-22-0032）を利用していただきたい。また、携帯電話が普及しているので、あらかじめ、防災無線と同じ内容を配信している市のメールマガジンにも登録をお願いしたい。11月1日からは、NTTドコモの緊急速報エリアメールの配信も開始した。これは、現在はNTTドコモのみのサービスだが、他の会社がサービスを開始したら、順次取り入れていきたい。

- ・本庄地区には、孫が遊びに来て遊ばずとも遊ばずともなく、黒井山グリーンパークや一本松展望台に連れて行っている。錦海塩田跡地に、子どもが遊べるような遊具のある公園を作ってはどうか。

（市長）スポーツ公園にも遊具などはあるが、物足りないか。

- ・物足りない。また、恐竜の化石の話も出たが、見学だと1回訪れるだけになってしまうのでは。錦海塩田跡地の活用方法は、大人の目線だけで議論するのではなく、これからの子どもたちのことも考えて使い道を決めてほしい。

（市長）恐竜の化石の収蔵場所としてお貸しするとすれば、収蔵展示という形が望ましい。見て回るだけでなく、説明を聞くことができるような方法を考えたい。ただし、市がお金をかけてやるかどうかは、いろいろな角度から見て慎重に考えていく必要がある。

- ・錦海塩田跡地にある産廃処分場の適正閉鎖に覆土が必要という話だったが、土が足りないのであれば、三谷池がだいぶ埋まっているので、掘って、その土を持っていったらどうか。切れたら、本庄のあたりは浸かってしまう。

- ・図書館の計画はどのようになっているのか。

（市長）子どもたちのためにぜひ作ってほしいという意見と、使わないから必要ないという意見とがある。しかし、今の瀬戸内市の図書館は、県下ワースト1という報道がされているように、満足なサービスを提供できない状態である。蔵書数も、市民の皆さんに満足に使っていただくためには15万冊程度必要で、そのためには最低でも2000平方メートル程度の面積が必要となる。現在の図書館では、とてもそれだけの蔵書を置くことはできないため、新たに建設する方向で準備を進めている。

- ・議会中継がインターネット配信されるようになったが、図書についてもインターネットを利用したサービスを行えば良いのではないか。

（市長）もし、市が配信するとすれば、著作権の問題をクリアしたり、権利を

買うのに莫大な費用がかかる。また、施設がなくとも良いのではないか、という意見もあるが、図書館はただ単に図書の貸し出しを行うだけの場所ではない。子どもたちが読書の習慣を身につけたり、市民が図書のサービスを通じて地域の情報を知ったり充実した時間を過ごすことができるなど、いろいろな形を持つ場所にしたいと考えている。最終的に議会で否決されれば作ることができないが、できることを準備していく。

- ・ 80歳以上で車の運転をしている人がいる。本人は、困るから免許の返納はしたくないが、周囲から運転をやめるよう言われている。バスの便も悪いし、図書館ができてそこまで行く足がない。高齢者が免許返納後に、タクシーなどを利用する際の補助や、乗り合いタクシーなどを導入できないか。

(市長) デマンドバスの検討段階でも、補助の話が出たが、タクシーの補助には莫大な費用がかかる。また、無料で利用できる回数に上限を設ければ、市民に負担感が出てくる。牛窓地域は過疎債を使うことができ、市の負担を抑えることができる。うまくいけば他の地域に広げられるかもしれないので、どうしても必要ということになれば、他のサービスを削って、デマンドをやっていく可能性もある。

- ・ お金がかかる話ばかりが出ている。

(市長) 市の負担をいかに減らしてやっていくかを考えたい。

- ・ 錦海塩田跡地に恐竜の化石を持ってくる話が出たが、津波が来たらいちばんに浸かるところではないのか。瀬戸内海には東西に走る断層もあり、津波が来ないという保障もない。

(市長) 瀬戸内海沿岸では、大津波が来るといよりは潮位がぐっと上がってくると考えられているようである。災害で津波が来ても、建物をお貸しする立場である市は管理責任を問われることはない。また、お貸ししたいと考えている発電機棟は、少し高くなっているため、多少不安は減るのではないか。

地域資源と活性化について、意見交換

- ・ ブルーベリーとフェイジョアを育てている。これらは、ジャムにすると良い果物である。さきほど、瀬戸内市発ブランド「Setouchi Kirei」の話をお聞きしたが、取り入れられるのではないか。

(市長) 瀬戸内市で穫れるレモン、抗酸化作用が高いオリーブ、南瓜などは、どれもアンチエイジング効果がある。美容に良い・健康に良いなどもブランドイメージに取り入れていきたい。

・「目に優しい」も加えてほしい。

(市長) 普通のものを作るのではなく、うまく差別化してブランド化につなげていきたい。

(市長) 歴史探訪記が完成したが、その後の展開は。

・今年から、横尾山では桜の植樹を始めた。現在は、本庄から上がる側は桜並木になっているが、長浜側には植えられていない。ゆくゆくは両側からつながるようにしたいと考えている。来年も2月に行く予定である。

・横尾山静円寺の多宝塔が国宝になるような取り組みはできないか。

・最近地球温暖化の影響もあり、よい米が作れない。JAなどとも協力して品種改良で良いものを作って、「夢二米」とでも名づけてブランド化してはどうか。品種改良が難しければ、肥料の開発などもできないか。また、美作市では、イメージキャラクターの形に刈り取って、田んぼを他所から来た人が見る場所にしている。「夢二が絵に描いた田んぼが見える」など、見せ方はいくらでも工夫できる。

(市長) 市のPRには使えるかもしれない。牛窓・邑久・長船という名前は、全国でも認知されているが、瀬戸内市という名前を聞いてピンと来ない人もまだ多い。

(市長) 夢二についても、両備グループとうまく連携してやらせていただければと思っている。どんな方法があるか考えていきたい。